

第 3 回

熊本県議会

高速交通及び新幹線活用対策特別委員会会議記録

平成23年10月 3 日

開 会 中

場所 第 3 委 員 会 室

第3回 熊本県議会高速交通及び新幹線活用対策特別委員会会議記録

平成23年10月3日(月曜日)

午前10時2分開議

午前11時55分閉会

本日の会議に付した事件

- 1 高速交通体系に関する件
- 2 熊本都市圏交通に関する件
- 3 九州新幹線鹿児島ルートを活用した地域振興に関する件
- 4 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- 5 その他

出席委員(16人)

委員長 松田三郎
副委員長 小早川宗弘
委員 山本秀久
委員 村上寅美
委員 小杉直
委員 岩中伸司
委員 堤泰宏
委員 氷室雄一郎
委員 鎌田聰
委員 守田憲史
委員 西聖一
委員 早田順一
委員 高野洋介
委員 高木健次
委員 増永慎一郎
委員 九谷高弘

欠席議員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

企画振興部

部長 坂本基

総括審議員

兼交通政策・情報局長 小林豊

地域振興課長 佐藤伸之

地域振興課政策監

兼新幹線元年戦略推進室長 本坂道

交通対策課長 中川誠

商工観光労働部

観光課長 宮尾千加子

くまもとブランド

推進課長 坂本孝広

土木部

部長 戸塚誠司

道路整備課長 増田厚

道路保全課長 亀田俊二

都市計画課長 内田一成

審議員兼

鉄道高架推進室長 上野晋也

警察本部

交通部長 中野洋信

交通規制課長 高野利文

事務局職員出席者

政務調査課課長補佐 小林昌樹

議事課課長補佐 平田裕彦

午前10時2分開会

○松田三郎委員長 ただいまから第3回高速交通及び新幹線活用対策特別委員会を開催いたします。

本日の委員会に1名の傍聴申し込みがありましたので、これを許可したいと思います。

次に、執行部を代表して、坂本企画振興部長からあいさつ及び概要説明をお願いいたします。

○坂本企画振興部長 委員会開会に当たりま

して、執行部を代表して、ごあいさつ及び本委員会の付託案件の概要について御説明申し上げます。

第1に、高速交通体系に関する件でございます。

まず、高規格幹線道路等の道路ネットワークの整備につきましては、厳しい道路予算の状況ではありますが、早期完成が図られるよう要望活動などについて積極的に取り組んでいるところです。

次に、航空対策についてです。

まず、国内線は、東日本大震災の影響等により、熊本-静岡線が運休するなど厳しい状況が続きましたが、夏以降は利用者数が前年並みまで回復しつつあります。

また、ソウル線につきましても、震災による影響で海外からの利用客が当初激減しましたが、ソウル市で大型ビジョンによる熊本の安全性のPRや利用促進に取り組んだことなどもあり、7月の利用者数は前年を上回るなど利用状況は回復しつつあります。引き続き利用促進対策に取り組み、週5便化の実現を目指します。

第2に、熊本都市圏交通に関する件でございます。

阿蘇くまもと空港への公共交通によるアクセスの充実を図るため、JR肥後大津駅から空港間を無料で結ぶ空港ライナーの試験運行を、10月1日から開始したところです。今後とも交通ネットワークの強化に取り組んでまいります。

第3に、九州新幹線鹿児島ルートを活用した地域振興に関する件でございます。

まず、九州新幹線の運行状況につきましては、東日本大震災の影響はあったものの、博多-熊本間の利用者数は、5月以降前年同期と比べまして4割近くの伸びを続けており、順調に推移しております。

次に、九州新幹線を活用した熊本づくりにつきましては、熊本の魅力を多くの方々に体

感し楽しんでいただけるよう、新幹線元年事業や「くまもとサプライズ」を、県内各地で展開しております。特に、今月は、3月に実施できなかった「くまもとサプライズナイト」を一昨日に熊本城で開催するなど、多くの県民の方々に参加いただきながら、熊本の元気を発信したところでございます。

今後も、新幹線元年が熊本の夢の実現に向け大きく飛躍する1年となるよう、また被災地に元気を送れるよう、県下全域大いに盛り上げてまいります。

次に、九州新幹線を活用した観光振興等につきまして、まずKANSAI戦略につきましては、関西における「くまモン」の人気をより一層高めるためのプロモーションを継続するとともに、熊本県産品の売り込みを図ってまいります。

次に、観光キャンペーンにつきましては、関西からの旅行者数が大幅に増加するなど、九州新幹線開業効果が徐々にあらわれているところです。引き続きその効果の最大化を図るため、今月から12月末にかけて、宮崎県、鹿児島県、全国JRグループとの連携による「熊本・宮崎・鹿児島デスティネーションキャンペーン」を展開し、全国に向け熊本の魅力を発信してまいります。

以上、各案件につきまして概要を御説明いたしましたが、詳しくは各課長から説明申し上げますので、御審議のほど何とぞよろしくお願いします。

○戸塚土木部長 土木部長の戸塚でございます。

昨日、土木部職員が逮捕されるような事態が発生いたしました。法令に従い職務を遂行すべき県職員が県民の皆様の信頼を損なうことになり、非常に申しわけなくお詫びいたします。

今後は、詳細な事実を確認した上で、総務部と連携して速やかにかつ冷静に対処してま

いります。

○松田三郎委員長 土木部長のごあいさつの後で大変言いにくい雰囲気でございます。皆さんのお手元にモンバイザーですか、これをお配りしております。今の部長のごあいさつがありましていろいろ話題を提供する意味で、これをかぶって本日の委員会をやりたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、議題(1)執行部から事業概要の説明を受け、その後質疑を受けたいと思います。

説明に当たっては、可能な限り簡潔にお願いいたします。

それでは、まず増田道路整備課長から順次説明をお願いいたします。

○増田道路整備課長 道路整備課でございます。

お手元の資料に基づきまして、前回からの変更点を中心に説明いたしますので、よろしくお願ひします。

それでは、道路路整備課で担当しております高規格幹線道路等の整備についての前回からの変更点2カ所を説明します。

まず、3ページからの3)経過のところです。

4ページをお願いします。

今回、平成23年6月20日から8月31日にかけまして、東日本大震災に関連した高速道路無料化の動きを3つ追加記載しております。

続きまして、11ページをお願いします。

(3)建設促進活動です。前回は年度当初でもあり、平成23年度の活動がまだ行われていなかったため、平成22年度の活動内容を参考として記載しておりましたが、今回平成23年度のこれまでの活動実績に修正記載しております。

以上、私からの説明でございます。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

お手元の資料の13ページをお願いいたします。

まず、航空路線、国内線の状況でございます。

冒頭、部長のごあいさつにもありましたように、国内線につきましては、当初、震災の影響で、利用者数前年よりかなり下回っておりましたが、7月以降徐々に回復し、現在はほぼ前年並みの数字に回復しているところでございます。

1枚おめくりください。15ページをお願いいたします。

後段、参考-4で記載しております4月から8月までの国内線の利用状況、対前年比較でございます。この表の一番右下をごらんになられてください。合計の増減率でございます。96.6%まで対前年で利用者数回復いたしております。

1枚おめくりください。16ページでございます。

参考-5で、震災以降の旅客数の状況、これを月ごとに記載しております。

まず、一番左の3月12日から3月いっぱいのところ、国内線は前年比75.1%まで低下しておりますが、一番右をごらんになられてください、8月の状況でございます、国内線の前年比104.5%まで回復いたしております。これは8月1カ月分の数字でございます。

17ページの後段をごらんください。

ソウル線の状況でございます。ソウル線につきましては国内線よりもかなり数字が低減いたしておりましたが、ゴールデンウィーク以降徐々に回復いたしております。

1枚おめくりください。19ページの後段でございます。

参考-3で、ソウル線の各月の利用状況を記載しております。

まず、4月の状況、対前年比36.7%、搭乗率34.1%まで数字は低下しておりました。8月の状況でございます、一番右端でございます、前年比90.3%、搭乗率72.9%まで回復いたしております。

1枚おめくりください。21ページの後段でございます。

台湾線につきましては、今週の6日、旅行代理店を対象とした台湾旅行セミナー等を開催するとともに、12月以降、現地研修会等開催する予定でございます。

また、12月の7日から10日まで、県立大津高校によります修学旅行生徒322名、ジャンボ機をチャーターした修学旅行が実現いたします。

また、中国線にしましては、中国系の航空会社——南方航空でございますが、ここにポートセールスを実施しております、定期路線開設に向けた協議を続けているところでございます。

25ページをおめくりください。

後段、阿蘇くまもと空港直轄事業の概要でございます。

23年度につきましては、総事業費2億9,500万余、滑走路の改良、照明工事等を取り組むところでございます。

1枚おめくりください。

前回の委員会で、国内線ターミナルビルの改修計画について御説明いたしました。前回の説明の際には、24年の9月末ということで工事の期間を御説明いたしておりましたが、7月末までに何とか終わるということで報告を受けております。

30ページをお開きください。

空港整備でございます。2項で、空港のあり方に関する検討会が開催され、7月末に報告書が取りまとめられております。報告書によりますと、平成32年度中を目途に、航空系事業と非航空系事業の経営一体化を基本として、阿蘇くまもと空港を含む国管理27空港の

経営改革を実現することが目標とされております。県としましては、国の検討状況、具体的なスケジュールについて情報を収集しつつ、今後の対応について検討していきたいと考えております。

34ページをお願いいたします。

阿蘇くまもと空港からの空港ライナーにつきましては、10月1日から開業いたしております、1日の本数47便、最速12分でつないでおります。

35ページでございます。

都市圏内のバス路線の再編につきましては、8月下旬に、熊本市においてバス事業者4社とバス路線の再編プロジェクトを発足し、具体的に協議を進める場を設けているところでございます。

37ページをお願いいたします。

公共交通機関の利用促進でございます。例年9月のバスの日、鉄道の日とタイアップしまして、交通事業者と一緒にまして、公共交通の利用促進を進めているところでございますが、今年度は県内全域の小学生を対象としまして、地球温暖化への意識を深めもらうことを目的とした社会実験を行っております。県内の小学生全員にリーフレットを配布いたして、利用促進の取り組みを図っているところでございます。

私の方からは以上でございます。

○内田都市計画課長 都市計画課でございます。よろしくお願いいいたします。

資料の38ページをお願いいたします。

(3)パークアンドライドにつきまして御説明いたします。

表に示しておりますとおり、現在、実証実験1カ所を含む9カ所においてパークアンドライドに取り組んでおり、表の最下段にある合計の欄に記載のとおり、駐車可能台数は537台、契約台数は288台で、稼動率は54%となっております。

次に、利用促進に向けた取り組みについてですが、1つ目は、県のホームページにおいてパークアンドライドを実施しています9カ所の駐車場について、毎月の空き状況を更新し、県民の皆様に広くPRを行っております。

2つ目は、周知・広報についてですが、街頭広報やNHKテレビデータ放送及び県政広報ラジオ番組により、利用促進の働きかけを行いました。新水前寺地区において、新水前寺連絡橋やエレベーターの供用開始に合わせて、また「バス・電車フェスタinくまもと」開催時に、チラシや広告入りポケットティッシュなどを配布し街頭広報を行いました。委員の皆様のお手元には、当日配布しましたパークアンドライドの広報入りポケットティッシュをお配りしております。

資料の39ページをお願いします。

普及促進に向けた取り組みとして、JR宇土駅駐車場への支援を行っておりまして、今年度中に20台での暫定運用開始を予定しています。

資料の40ページをお願いします。

続きまして、交通結節点改善について御説明いたします。

(2)新水前寺駅について御説明いたします。

申しわけございませんが、別添資料①をお願いいたします。別添資料①の2ページをお願いします。

これまで上段のイメージ図に示しておりますとおり、本年4月1日に、JR新駅舎と市電新電停とを運用開始しました。

また、下段のイメージ図に示しておりますとおり、7月20日に、JR新水前寺駅と市電新水前寺駅前電停とを、新水前寺連絡橋及び両側の階段で結節しました。

1つ戻っていただきて、1ページをお願いします。

9月22日に、東日本大震災の影響で完成・

供用がおくれていましたエレベーターの供用を開始し、JRと市電とが新水前寺連絡橋、両側の階段及びエレベーターにより結節しました。

次に、同じ別添資料①の3ページをお願いいたします。

熊本都市圏都市交通アクションプログラムの平成22年度末の進捗状況を御報告いたします。

平成22年度末の進捗状況としましては、全施策・事業から実施検討施策を除く194の施策・事業のうち、平成22年度までに約6割に当たる113の施策・事業が目標を達成しております。

中段の左側のグラフに、全施策・事業の進捗状況を示しております。黄色が平成21年度までの達成状況、赤色が平成22年度の達成状況でありまして、昨年度は18の施策・事業が目標を達成しました。その詳細は、次の4ページに示しております。中期A及び中期Bに位置づけられた施策・事業は、おおむね計画どおり進捗しております。

次に、5ページをお願いいたします。

現在、9の施策・事業が未着手となっておりますが、その理由と今後の予定を記載しております。なお、表の中段に記載している高平麻生田線は、熊本市が平成22年度に事業に着手しました。

6ページをお願いします。

実施検討施策は、実施を前提として検討する施策で、実施可能となった段階でアクションプログラムに追加するものであり、11施策が対象となっております。現在の取り組み状況を記載しております。

今後、未着手施策・事業につきましては早期の着手、また実施検討施策につきましては、計画の具体化に向けて取り組んでまいります。

次の7ページから11ページにかけて、平成22年度に完了をしました施策から、施策

分類ごとに10の施策・事業の整備効果を検討しております。

今後とも、県としましては、アクションプログラムの計画的かつ継続的な実施に向けて、行政と交通事業者間、熊本市と熊本都市圏内の市町村間の相互調整を積極的に担ってまいります。

説明は以上でございます。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

恐れ入りますが、本資料の方に戻っていましたのでよございますか。40ページをお願いいたします。

交通結節点の上熊本駅でございます。上熊本駅につきましては、現在、熊本市において交通実態調査に着手したところでございます。今年度中に、上熊本駅における利用の状況が明らかになると聞いております。

肥後大津駅でございます。先ほど御説明いたしました空港ライナーの出発点になります肥後大津駅の南口につきまして、9月末に完成したところでございます。

引き続き、48ページをお願いいたします。

九州新幹線鹿児島ルートを活用した地域振興に関する件でございます。

九州新幹線の運行状況についてでございますが、48ページ後段、九州新幹線の利用実績でございます。3月12日の開業から9月11日までの6カ月間、184日分の数字が発表されております。博多ー熊本間、開業後6カ月間で約450万人、熊本ー鹿児島中央間で約260万3,000人、前年同期比博多ー熊本間138%、熊本ー鹿児島中央間164%でございます。

49ページに各月ごとの前年比が出ております。8月につきましては、博多ー熊本間14.6%、熊本ー鹿児島中央間177%でございます。

49ページの後段には、各駅の乗降客数が出ております。

以上でございます。

○本坂新幹線元年戦略推進室長 55ページをお願いしたいと思います。

秋の開業記念イベントの概要でございます。

3月の開業記念イベントの多くは震災等により中止されましたが、それを再スタートしまして、熊本を元気にし被災地に元気を届けるため、「くまモン」を前面に打ち出したイベントを開催しております。

先ほど部長のごあいさつにもございましたが、一昨日、くまもとサプライズナイトを熊本城の竹の丸広場で行っております。くまもとサプライズフィルム、小山薰堂さんがおつくりになった完成版の初披露、それから県産酒・焼酎のPRイベントと共に催して行いました。すばらしいフィルムができ上りましたので、これは今後十分に活用してまいりたいというふうに考えております。

それから、昨日でございますが、2番目、くまモン体操大集合ということで、熊本城二の丸公園の催し広場で行いました。なりきりくまモンコンテストやみんなでくまモン体操などを行いましたが、目標3,000人に対しまして約4,000の方々が御参加いただきまして、大いに盛り上がったところでございます。

それから、3番目でございます。10月10日にまた、くまモンまつりを行います。これは熊本駅の森都心プラザ、それから熊本駅の白川口前広場—東口広場の周辺で行います。くまモングッズのチャリティバザー、それからくまモンフォトアート展、そしてファン感謝祭を行いたいと考えております。特に、このファン感謝祭につきましては、800人の募集をしたところ1,200人の応募がございました。締め切っておりますが、その1,200人のうち約150人が県外からの応募でございまして、「くまモン」の県外への人気の高さもな

かなかのものというふうに考えておるところでございます。

56ページをお願いしたいと思います。

戦略3の横軸アクセスの改善・強化でございます。熊本駅から三角駅までの「A列車で行こう」が、10月8日から週末を中心に運行開始されます。三角港から本渡港を結びまして、天草宝島ラインと接続して運行されるということになっております。

それから、11月の21、22日に、高森町ほかで第10回全国グリーン・ツーリズムネットワークの熊本阿蘇大会が開催されます。

④番目、総合的な情報発信としまして、新幹線元年事業イベントガイドブックの制作・配布を実施しております。

それから10月1日に、くまモンオフィシャルサイトの全面リニューアルを行ったところでございます。

最後に、くまもとサプライズの展開でございますが、「くまモン」の派遣に関しましては多くの皆さんから御要望を寄せられておりまして、4月から8月までに401カ所、大体1カ月当たり50カ所、PR対象人数が44万人ということでございます。

それから、ロゴ、キャラクターの使用につきましても、4月から8月末まで許可した件数が728件、累計で1,300件を超えたところでございます。まだまだ「くまモン」人気は高いものというふうに考えております。

以上でございます。

○坂本くまもとブランド推進課長 くまもとブランド推進課でございます。

まずもって、モンバイザーの着用をお許しいただきましたありがとうございました。

説明につきましては、57ページ、58ページですが、別添資料③をお配りしておりますので、そちらの方で御説明をさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

広島でのくまもとプロモーションと関西で

のくまモン活用プロモーションということでお配りをしております。

資料③の1ページをおめくりいただきますと、まず、広島でのくまもとプロモーションという形でやらせていただきます。

KANSAI戦略は、関西地域から以西ということで考えておりまして、中国地区も対象となってございます。それで、特に広島までは熊本から直通で1時間37分ということで行けるようになっておりますので、以前の在来特急で行きますと、博多まで行く時間にプラス10分程度ぐらいで行けるということもございますので、広島からの来訪者はかなり多い状況でございます。かなりお金も使っていただくという情報もいただいております。

それで、プロモーションといたしまして何をやるかといいますと、広島カープを活用したプロモーションをやってまいりたいというふうに考えております。広島カープの岱明出身であります前田智徳選手を活用したテレビCMをつくりたいと思っております。

前田選手は御承知のとおり、野球の求道的な意味合いも強く、広島一筋で質実剛健な、まあ武士道に通じるようなタイプの選手でございまして、広島カープで大変人気がございます。そういうものを媒体としながらCMを作成し、11月23日には、広島カープのファン感謝デー等で、熊本の売り込みをやってまいりたいというふうに考えております。

それと、先ほど直通で1時間37分ということで御説明をさせていただきましたが、マツダスタジアムに看板を既に設置をしております。これはシーズンを通して設置をさせていただいております。

次が、「食」の魅力を広島のイベント等でも発信をしてまいりたいということで考えておりまして、9月12日から14日まで、広島駅前での観光物産展を皮切りといたしまして、10月21日に、くまもとの食の情報番組を流したいと思っております。10月29、30で、広島

フードフェスティバル等を実施させていただきたいというふうに考えております。

それとあわせまして、「くまモンを見たモン！」キャンペーンin広島ということで、関西でいろいろ出没等をやらせていただいて、「くまモン」の人気をかなり向上させていただきましたけども、広島でも同様の展開をさせていただきたいと。

広島電鉄に「くまモン」ポスターを掲出させていただいて、できるだけ多くの方々に熊本の認知度を上げてまいりたいというふうに考えております。

この事業につきましては、現在観光課で行っております熊本・宮崎・鹿児島デスティネーションキャンペーンが10月から実施をされておりますので、これとタイアップをする形で広島展開をやってまいりたいというふうに考えております。

次のページでございます。

関西でのくまモン活用プロモーションでございますが、「くまモン」の認識は、前回委員会で御説明させていただきましたとおり、大阪地区においては41%という認知度を誇っております。それで、今年度はその認知度を活用してさらに深みを増してまいりたいということで考えておりまして、9月の30日に、知事の方から「くまモン」に対して辞令交付を行ったところでございます。

一つは、ちょっと順番が逆で申しわけございませんが、「くまモン」を営業部長として、今までどちらかというと、知ってもらう活動を主にやってまいりましたけども、そこを実をとるということで、食を売り込むための営業部長として会社訪問をさせていただくという形をとさせていただいて、熊本の食材の売り込みをやってまいりたい。最低でも、10社程度以上のところに訪問を仕掛けまして、できるだけ契約、成約まで結び着くような形の展開をしてまいりたいというふうに考

えております。

先生方に、このモンバイザーのほかに、名刺をお配りさせていただいているかと思いますけれども、こういう名刺を36種類の3万枚つくってあります。これを持って営業活動をやらせていただきたいというふうに考えております。

お手元に、3枚程度それぞれありますが、それはほんの一部でございます。御参考までに見ていただければというふうに考えております。そういうものを持ちながら会社を訪問してまいりたいというふうに考えております。

もう一つのミッションがミリオンプロジェクトでございまして、昨年1万枚の名刺を、とにかく「くまモン」を知っていただくということを主眼として、名刺を1万枚配るということがミッションでございまして、それはどうにか完遂することができまして、かなりのものが出てきているのかなと考えておりますが、それにさらに深みを増して「くまモン」ファンをふやすと、「くまモン」に触れ合っていただく、「くまモン」になり切っていただく、そういうものをやりまして、目指せ100万人ということでやってまいりたいということで、ミリオンプロジェクトをやらせていただきたい。「くまモン」には、このミリオンプロジェクトのリーダーという形の辞令も今回知事の方からおりております。

これで何をやるかといいますと、ウェブでということで一番上に書いてございますが、みんなで「くまモン」の写真を投稿とか、例えばきのう元年戦略室の方でやっていただいている程度、「なりきりくまモン」ということで、自分が「くまモン」だと、弁当に「くまモン」をつくるとか、自分でグッズをつくるとか、そういうものをウェブサイトに投稿をしていただいて「くまモン」に関心を持っていただこうと。

私どもから仕掛けといたしまして、「くま

モン」のパーツをダウンロードできるような形をとらせていただきたいというふうに考えております。赤いほっぺたとか口だとか、そういうものをダウンロードして、自分の顔にかぶせてウェブサイトに投稿できるというようなシステムを考えてまいりたいというふうに考えております。

それと、2点目でございますが、大阪駅で顔を認識するようなカメラを設置いたしまして、そこを通行する方の「くまモン」の顔のところにそれをべたっとかぶせるようなものを、「なりきりくまモン」システムという形のものをつくりまして、そういう形でPRをやってまいりたいというふうに考えております。

もう一つにつきましては、イベント等で、「くまモン」の出張先とかで「くまモン」に大変身していただくということで、ここに掲げておりますモンバイザーを配布するとか、そういうものをやって、できるだけ「くまモン」に親しみを持っていただきたいというふうに考えております。

次のところに、「勝手に大阪盛り上げ隊」ということで書かせていただいておりますが、今までどちらかというと、「くまモン」が知っていただるために勝手に出張っていってやっておりました。今後は、できるだけそういう形で親しみを持たれた「くまモン」を呼んでいただきますと、行ってその場を盛り上げるような役目を、今度は恩返しという意味も含めましてやってまいりたいということで、「勝手に大阪盛り上げ隊」という形でやってまいりたいというふうに考えております。それとあわせまして、新名刺を3万枚配布させていただきたいというふうに考えております。

一番下のところに、「くまもとグルメキャラバン」ということでやっておりますが、8月20日から実施をしておりまして、車をラッピングさせていただきまして、そのラッピング

グカーを走らせながら、イベントやスポーツ会場等で、くまもとグルメ等の販売をさせていただきて、熊本の食のPRに努めているというようなこともやっております。

説明は以上でございます。

○宮尾観光課長 観光課でございます。

本資料の59ページをお願いいたします。

新幹線開業に伴う観光キャンペーンの展開でございます。東北大震災の影響による観光客減を最小化にするために、地域と連携をいたしまして、まず中ほどでございますけれども、夏の観光キャンペーンを行いました。「だって夏だモン！カモン！くまもと！」でございます。これはいわゆる夏休みということもありまして、九州内の家族層をターゲットに行いました。

内容的には、天草のサンドアートフェスティバル、阿蘇湧水めぐり、人吉球磨カッパ搜索隊、日奈久温泉縁日等でございます。そのほか県内4地域の御当地カレーの開発・販売等を行いまして、それらをキャンペーンサイトあるいはキャンペーンパンフ6万部、雑誌・テレビ等の情報発信をつけまして、59ページ下の方から60ページ、次のページで恐縮ですけども、上段あたりのさまざまな博多を中心とした情報発信を行ってまいりました。

それから、60ページの下段をお願いいたします。

JR西日本と南九州3県とのタイアップキャンペーンでございます。「夏旅九州“熊本・宮崎・鹿児島”」ということで、これは8月の1カ月間でございますが、デスティネーションキャンペーンのプレと位置づけまして、関西からのお客様方に来ていただくようなキャンペーンを行いました。

61ページをお願いいたします。

先ほど部長の説明にもございましたけども、熊本・宮崎・鹿児島デスティネーションキャンペーン「のんびり過ごす極上の旅“熊

本・宮崎・鹿児島”が10月1日から始まりました。これはいわゆる全国JR6社と連携をいたしまして、全国規模の大きなキャンペーンということになります。キャンペーンガイドブックが52万部だったり、全国のJRの主要駅にポスターを張ったり、各雑誌・テレビ・CM等で南九州を売ってまいります。

この中で、ちょうど61ページ真ん中ほどでございますけれども、キャンペーン史上初めてのオープニングイベントを熊本城で開催いたします。これが「極城の祭典」で、今週末、8、9、10の3連休になります。

主な内容といたしましては、恐縮ですが、お手元に別添の「極城の祭典」という、こういうリーフレットをお配りしておりますので、そちらの方がわかりやすいかと思いますので、そちらをごらんいただければと思います。

内容的には、記念式典のほかに「南九州書道ガールズの熱い競演！」ということで、書道ガールズのパフォーマンス、それと「三県祭と郷土芸能の祭典」、それから今ときどき新聞にも出てきておりますけれども、ギネス世界記録に挑戦しております3,000人の和太鼓競演ということで、これは九州を中心に150チームの皆様方が登録いただきまして、熊本から元気を東北に発信しようというようなものがございます。それと「三県グルメパビリオン」とということで、さまざまな催しをやっていきたいと思っております。

盛りだくさんで、ちょうど「みずあかり」が開催されておるときでございますけれども、熊本にお越しになった皆様方がリピーターになっていただくように、関係者一同しっかりとやっていきたいと思っております。

本資料に戻っていただきまして、62ページをお願いいたします。

おもてなしの取り組みでございます。これは地道なんですけども、ある意味、本当に大事な部分でエンドレスでやっていきたいと思

っております。おもてなし団体に対しての支援をさせていただいておりますけれども、第1期——前期も72件の応募がありまして、そのうち40件を支援事業としてお手伝いさせていただいております。また、後期もしっかりと応援していきたいと思っております。

以上でございます。

○中川交通政策課長 九州新幹線全線開業後の効果等について御説明いたします。

恐れ入りますが、お手持ちの別添資料②をごらんになられてください。

九州新幹線全線開業後の旅客流動につきまして推計をいたしております。

まず、1ページ目は、関西地方と熊本県、下段が鹿児島県でございますが、開業後3月12日から7月31日までの4カ月半、142日間のデータにつきまして集計して比較いたしております。

まず、上段、関西地方と熊本県の状況でございます。新幹線開業前は、JRの利用が11万1,000人、航空機の利用が23万6,000人で、およそ7対3の比率で旅客流動がありました。開業後につきましては、JRが24万7,000人、航空機が20万4,000人、およそ半々の数字に分担率が変化いたしております。新幹線開業後につきましては、トータルで10万3,000人の増加、前年同期比29%の増でございます。

後段、鹿児島県でございます。JRにつきましては、開業前5万人、航空機36万8,000人ということでおよそ8対1の割合でございましたが、新幹線開業後につきましては、JRが17万5,000人、航空機が32万3,000人——ここで申しわけございません、航空機の数字32万3,000人の下に分担率「45%」と書いておりますが、これは「62%」の誤りでございます。鹿児島県においては、JRと航空機の割合が6対3に変化しております。開業後7万8,000人の増加、前年同期比17%増という

ことでございます。

2ページをお願いいたします。

同じように、中国地方との旅客流動を比較しております。

まず、上段、中国地方と熊本県との間のJRの利用。開業前6万4,000人が開業後11万4,000人、5万人の増加で、同期比78%の増となっております。一方、鹿児島県は、開業前4万3,000人から18万2,000人と13万9,000人増加しております。

2ページの後段でございます。

ただいまの関西地方と中国地方の新幹線利用者、JRの分だけ合わせた数字でございます。熊本県につきましては、関西地方の24万7,000人、中国地方の11万4,000人を合わせまして合計36万1,000人。鹿児島県につきましては、関西地方17万5,000人と中国地方18万2,000人を合わせまして、合計35万7,000人ということになっております。

3ページをお開きください。

福岡県との旅客流動でございます。

まず、上段、福岡県と熊本県の間の流動でございます。新幹線開業前は、JRの利用が71万2,000人、その他、これは高速バスが主でございますが19万8,000人、開業後につきましては、JRが98万3,000人、その他21万ということで、開業後28万3,000人の増加、前年同期比31%の増でございます。

後段、鹿児島県と福岡県の間でございます。開業前、JRが52万5,000人、その他12万3,000人、開業後につきましては、JR86万1,000人、その他13万2,000人、新幹線開業に伴いまして34万5,000人の増加、前年同期比53%増でございます。

私の方から以上でございます。

○宮尾観光課長 観光課でございます。

引き続きまして、観光動向調査ということで、8月に新幹線の影響を調査しておりますので、その御説明をさせていただきます。

今の続きで、4ページをお願いいたします。

これは、調査期間としては8月の2日から16日ということで、県内の主要41ホテル・旅館にアンケートの調査用紙の設置及び回収のお願いをいたしました。そして、宿泊者によるアンケートの結果ということでございます。41社中32社に御協力をいただきました。

調査項目は、「どこからお見えになりましたか」という居住地、それから②番目、「熊本県以外に、どこにおいでになりますか」と、それから滞在期間、交通手段、訪問目的の5点をお尋ねしております。サンプル数としては1,213人から回答をいただいております。

アンケート調査結果でございますが、まず居住地、「どこからお見えになりましたか」ということでは、やはり九州地方というのが約5割を占めております。その中でも福岡が18.1%ということで一番多いという順序になっております。それから熊本県、鹿児島県の順序でございます。九州以外では、関東が236人の19.5%、関西が163人で13.4%、中国地方が6.6%という順序でございます。

次のページをお願いいたします。

「熊本県以外に、どんなところに行かれますか」という問い合わせでは、これは関東、関西ともほぼ同じような傾向でございましたけれども、熊本のほかに大分、福岡、鹿児島といったところが多い傾向が示されておりました。これは複数回答でございます。

それから③番目、滞在期間は、宿泊施設でございますので、大抵1泊というのは当然あるわけですけども、熊本の滞在期間は1泊というものが36.9%。ただし、2泊以上というのも60%以上ということで、予想以上に連泊の傾向がございました。

それから、滞在期間を居住地別に見ますと、九州内からは1泊というのがやはり多いんですけども、関西・関東からの宿泊者に

つきましては2泊というのが最も多く、3泊、4泊以上ということも、関西では28.2%、関東では36.0%という一定の高さを示しております。

6ページをお願いします。

「どういう交通手段でお見えになりましたか」という、これも複数回答でございますけれども、自家用車が約5割、これはやはり九州内からが半分でございますのでその方たちのことだと思います。ただ、次いでは九州新幹線が308人、航空機が247人という高い順序になっております。

それを、下の方でございますけれども、居住地別に見ますと、交通手段、居住地別に見ますと、関西からの宿泊者の163人のうち、九州新幹線でお見えになった方は92人ということで、また関東からのお客様、宿泊者236人のうち九州新幹線は67人で、航空機が165人ということで、関西からは新幹線、関東からは航空機利用という傾向が見られるかと思います。

それから⑤番目で訪問目的ですが、これは調査したのがちょうど夏休みのお盆の期間ということもございましたので、観光が8割という非常に高い数字でございました。その他の意見の中では里帰りというのもございました。

次のページ、7ページをお願いします。

今御説明申し上げておりましたのはホテル・旅館でございましたが、今度は観光施設版ということで、県内の主な4つの施設、多い方から県内の代表する熊本城、阿蘇ファームランド、青井阿蘇神社、三井グリーンランドという、この県内の4つの施設の聞き取り調査を同様な内容でやらせていただきました。サンプルは586人ということでござります。

まず、「どちらからお見えになりましたか」という居住地でございますけれども、九州はやはり63.4%と一番高いんですけども、そ

のなかで福岡県が20.5%で最多でございます。これは宿泊の動向とほぼ同じような傾向でございます。九州外では関東が14%、関西が9.6%という順序でございました。

それから、8ページの熊本県以外の訪問予定地ということでございますが、これは熊本県のみという方が401人と圧倒的に多かったんですが、熊本県のほかには福岡県、大分県、鹿児島県といった県が訪問予定地ということで出てきております。

滞在期間につきましては、1泊が約46.4%とほぼ半数以上です。次いで、2泊が34.5%という傾向でございました。

9ページをお願いします。

これは報道資料で既に発表させていただいたものでございますけれども、6月から8月、これは私どもが各旅館・ホテルにアンケートを送りまして、そこから書いていただいたというものですございます。40社中30社に御協力をいただきまして御回答いただきました。

新聞等で既に報道されているところではございますが、上の方、6月から8月の合計を見ていただいた方がいいかと思いますけども、国内客は109.14%、9%強の増、海外は89.50になっておりますので約10%の減ということで、全体は一番下のところでございますこれは106.26%ということで、6.26%増加ということになっております。

夏休み期間ということもございますけども、ちょうどその表の真ん中あたりでございますけども、うち関西以西からということで151.53%ということで、50%以上の伸びを示しております。新幹線開業効果もあらわれてきているということとともに、海外客につきましても、東日本大震災による落ち込みもまだまだ厳しい状況ではございますけども、少しづつ回復してきているかなというふうに思っております。

以上でございます。

○松田三郎委員長 以上で執行部からの説明が終わりましたので、質疑に入りたいと思います。質疑は何かございませんか。

○村上寅美委員 2点尋ねます。

21ページの国際チャーター便のところ。中華航空や台湾観光協会、旅行業者との協議ということで、定期便の実現ということを書いてあるけど、県内高校の校長会や保護者会に働きかけということになっておりますけど、この下に目的で「新規国際線の導入」ということが、これは台湾と中国のことを目指しているということですか。これであれば絞り込んで、例えばここでは校長会という名前は出ている、これは僕もよう知っているけど、やっぱり商工会議所、経済界とか、ほかの団体の動きはないの。

○中川交通政策課長 今台湾線についてお尋ねでございます。先ほど県立大津高校……

○村上寅美委員 台湾と中国たいね。

○中川交通政策課長 まず、台湾線につきましては、県立大津高校の修学旅行につきまして御説明いたしました。12月7日から10日まで、320名でジャンボ機をチャーターしておりますが、まだ座席に余裕がございますので、今大津高校の校長先生との間で、そのあてにいる座席を利用して、県内の経済団体の方、ロータリークラブの方などと話をされているようですが、一緒にジョイントしてミッションはできないかという話を今しているところでございます。

○村上寅美委員 話をされているようですが、今言つただろう。県の方で積極的に対応してやらないと、大津高校が言ったからそれは特別の関係があれば別だけど、県としての施策

の一環として、ボールを投げてお願いするということとは全然インパクトが違うから、その辺を是非やってもらいたい。中国も一緒です。ぜひこれは実現したい。

くどいようだけど、宮崎に直行便が出ておるということは、これは宮崎の東国原さんを中心にトップ営業と、それから熱意ですよ、熊本を差しあいて宮崎ということは。観光議連としても、これは宮崎にも鹿児島にも協調性をとっているこうということで申し合せができているから、ぜひそういうところで、県がインパクトをとて下におろすと、そうすると県から言われたということで動きが全然違うと思うから、この辺を両国に対してやってください。それが1点。

それから、土木の方で連続立交に対して、豊肥線の石仏ですね、これに非常に強い地元の要望があるというのと、やっぱり駅周辺というならば、あれは上げないと意味がないと思うんです。その辺をどういうふうに考えておりますか、課長。

○内田都市計画課長 石仏地区につきましては、今村上委員の方からお話をございましたけれども、昨年度から、地元並びに先生たちから熱心に要望を伺っております。石仏地区につきましては、今豊肥線が平面踏切でございまして、道路が市道でございますけれども非常に渋滞もしておりますということでございますので、熊本市と連携をいたしまして、鉄道を上げる方向と道路を上げる2通りの渋滞対策がございますけども、さっき申しました熊本市と連携をして、検討をしていきたいというふうに思っております。

○村上寅美委員 あと要望として、県だ市だということでそれがうやむやにならぬように、しっかりとスタンスでやってください。

済みません、自分ばかり。観光課長に、2

ページの鹿児島との比較ですね。今副委員長ともちょっと話したんだけど、新幹線開業後のJRの問題で、熊本県は78%の増ですね。

○松田三郎委員長 資料②の2ページですね。

○村上寅美委員 そうです。資料②の2ページ。すると、鹿児島は323%の増と、この辺をどう見ますか。今後の対応として、これはちょっと異常だなという気がする。

○松田三郎委員長 これはどうですか、課長はこっちの資料じゃ……。

○村上寅美委員 これは現実だから、これに対する対策というか、これは出たわけだよ。今後やっぱり何か考えないかぬということがあると思うんです。

○宮尾観光課長 御指名でございますので、観光でどうとらえるかというところで……。この点につきましては、終着駅効果ということもありまして、大きく鹿児島の方が伸びているなというところは、率直に受けとめたいと思っております。

ただ、私どもとしましては、本当にこれからが勝負だと思っておりますので、中長期的にお客様方がダウンしないように、この新幹線開業効果を持続させるように、引き続き頑張っていきたいと思っております。

○村上寅美委員 みんなで考えましょう、みんなでね。

以上です。

○松田三郎委員長 ほかにありませんか。

○鎌田聰委員 浩みません。今の関連でまたお尋ねですけども、関西との旅客流動だとか

中国地方との旅客流動、鹿児島とずっと比較してありますが、これはどっちなんですか、熊本から出ていった人数、向こうから来た割合というのはどうなんですか。

○中川交通政策課長 まず、資料の1ページをごらんになられてください。旅客流動は、これは関西地方と熊本県と書いておりますが、行き帰り両方でございます。合わせたところでございます。

○鎌田聰委員 だから、向こうから来ているのが、鹿児島の方が多いという見方でもないということでしょう。鹿児島から行っているのも含まれて利用している客の数ということであって、鹿児島と熊本を見て、誘客が負けているというふうなところで判断できるんですか。

○中川交通政策課長 今1ページの熊本県と鹿児島県の比較で、開業後で熊本県の方が10万3,000人の増加、鹿児島県の方が7万8,000人増加ということでございまして、この数字、これは7月31日までですけれども、この数字を見る限り、私の方は特に誘客で負けているというふうには思っておりません。これは一応数字的には行ったり来たりの数字ですけども、大体聞きますと、真ん中で割って、行った者は帰ってくるからということで、両方同じぐらいの割合と聞いております。

○鎌田聰委員 実際、関西とか中国から来られたか、行ったかという割合は見えないんですね。

○中川交通政策課長 申しわけございません。この数字ではそこまでは見えておりません。航空機を例にお話ししますと、一応事業者の方にもどんな割合かインとアウトはと確認しましたが、インとアウト、大阪と熊本の

間はおおよそ同じぐらいの数字だということを聞いております。JRについては、そこまではまだ今の時点では数字が見えておりません。

○鎌田聰委員 そこまで踏ました上で実際いろいろ頑張らなきやいけませんけども、インとアウトがどうなのかというところも、もう少し突っ込んだ上の分析とその後の対策というのが必要になってくると思いますので、ぜひその辺も教えていただきたいと思います。

もう1点よかですか。

○松田三郎委員長 内訳というのは、県が独自に調査したデータでなら別ですけれども、事業所にお願いしてデータを提供していただくという項目についてはとっておりませんと言われたら、それ以上のことはデータとして分析しにくいという前提と現状はあろうかと思います。

引き続きどうぞ。

○鎌田聰委員 よろしいですか。済みません、ちょっと話は変わりますが、パークアンドライド、38ページですね。それぞれ8カ所で利用台数の濃淡はありますけれども、今後また新たなところも含めてやっていくというような話でございましたが、今やっているところで、特にゆめタウン光の森ですね、これは100%、100台ということですけれども、これをこれ以上ふやすとかいう発想はないですか。

それと、また希望者がこれ以上多分いらっしゃるんじゃないかなと思いますけれども、そういう取り組みはないのかなと思いましてお尋ねです。

○内田都市計画課長 ゆめタウン光の森は、時期的に100%のときと100%にいかないとき

もございますが、今委員御指摘のとおり、ここに駐車したくてもできない方もおられると思います。そういうことで、実は昨年ゆめタウン光の森に私ども伺いました、これ以上ふやせないのかというふうなお話を申し上げました。できれば是非ふやしてもらいたいというお話を申し上げましたが、向こうからの回答といたしましては、駐車場を用意せにやいかぬ、ゆめタウン光の森は来客が非常に多くて、車を止める人がいっぱいいるんだということで、現時点ではふやせない状況にありますという回答でございました。

しかしながら、私どもとしては、パークアンドライドを是非広めていきたいということもございますので、引き続き拡大につきましては要望してまいりたいというふうに考えております。

○鎌田聰委員 よろしいですか。いろいろな事情もあるかと思いますが、これだけ100%が続いておりますので、そういう要望をぜひ続けていただいて、効果あるところはどんどんそのように、そのためのパークアンドライドのある程度の実験というか、そういうしたものも踏ました上でどう対策を打っていくのかが必要になってくると思いますので、よろしくお願ひいたしたいと思います。

あわせまして、特に熊本市の東部方面の自動車をカットするというところがないので、西部は西部車庫がありますけども、東部からの車というのは非常に多い、そういうふうな渋滞もあってますので、その対策をぜひ講じていただきたいと思いますけれども、何かお考えはございますか。

○内田都市計画課長 今委員御指摘のとおり、38ページのパークアンドライドは、どちらかというと南北方面が非常に多いということで、東の方からということで、第2空港線にあれば私どももちろんいいというふうに思

っておりまして、引き続きバス事業者等と調整してまいりたいというふうに思っております。

ただ、1点だけ御報告しておきます。先ほどの別添資料の①の6ページ、実施検討施策の取組状況(11施策)と書いているところがございます。この中の198番、公共交通のところに記載してございますけども、今年度バス事業者におきまして、11月の運用開始を目指して、インター周辺で駐車場を整備予定というふうに伺っております。

以上でございます。

○鎌田聰委員 よろしいですか。その取り組みはぜひ実現に向けてお願ひをしたいと思いますが、あわせまして、今の資料の201番ですか、長嶺方面のパークアンドライドは未検討と書いておりますので、検討もしていないのかなと思いますけど、ぜひこの辺の検討をやっていないと思いますので、やっていただいた上で、こちらからでも自動車交通量をカットできればなと思いますが、その辺いかがですか。

○内田都市計画課長 長嶺方面におきましては、当初、免許センター跡地にはできないかということで考えておりましたすけれども、あそこができないということで、今後また長嶺方面につきましても引き続き検討をしていきたいというふうに思います。

以上でございます。

○鎌田聰委員 よろしくお願ひします。

○氷室雄一郎委員 何ページですかね、新幹線開業効果、さまざまな濃淡がありまして、非常にわかりにくい面もございますけれども、具体的に私の方から2つだけ。

49ページでございますけども、新玉名駅は別として、新八代駅と新水俣駅については数

字が出ていますけども、まあ旅行とか関係なくて、にぎわいが見えているのか、前年比といいますか、そのデータはありませんか。新幹線開業後にこの辺はどう——新玉名駅は資料がないと思うんですが、ここは少しにぎわったのかどうかということを、前のデータかなんかありますか。それが1つです。

もう一つは、56ページですけども、特に阿蘇関係は4月から縦断コースの新設、また高森駅の方はこれも4月からコースが新設される。また、八代めぐり観光バス、これも運行は4月の8日から開催される。この辺の状況がちょっとデータ的にわかれば、ある程度効果があらわれているのかどうか、その2件だけちょっとお願ひします。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

新八代と新水俣の部分開業時点との比較でございます。

○氷室雄一郎委員 前の年でも、大体この時期のデータだけちょっとわかりますか。実際ふえているのか、横ばいなのかということを……。

○中川交通政策課長 平成20年度の数字ございます、1日当たり新八代が約500人、新水俣が約900人でございますので、新水俣、新八代ともに全線開業後大きく数字が伸びていると思っております。

○氷室雄一郎委員 それはいつの、1カ月……

○中川交通政策課長 1日当たりでございます。

○氷室雄一郎委員 1日当たり。新八代駅はかなりふえているわけですね。4倍ふえてお

りますか。その辺の効果としては各地域でかなり濃淡がありますけども、熊本駅はもちろんわかるんですが、両駅は実際効果があらわれているんだろう、宿泊とかは別にして、とにかく利用した数でいけば……。資料はありませんか。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

22年の新水俣が、1日当たり750名でございます。ただいま本資料の49ページ、7月で新水俣1,000人でございますので、1日当たり新水俣は250人伸びているところでございます。新八代につきましては、平成22年、1日当たり1,550名ということでございますので、7月で比較しますと1日当たり約300人伸びておるということです。

○氷室雄一郎委員 あと、2点目の方はどうですか。

○本坂新幹線元年戦略推進室長 阿蘇南登山線の縦断コースとそれから同じ横断コースとございますが、6月20日現在これはちょっと古い数字ではございますが、南登山線の縦断コースで1日当たり2往復で、1日当たり大体1.08人ということでございます。それから横断コースでございますと1日2往復4便でございますが、同じく6月20日現在で、1日当たり0.53人という数字になっております。

○松田三郎委員長 いいですか。

○氷室雄一郎委員 はい。

○増永慎一郎委員 済みません、「くまモン」についてお伺いをします。

56ページの⑤番、2つ目の丸のところなんですが、民間事業者等が販売を目的に制作する商品等についても認めてるということ

で、認めていらっしゃる許可件数が728件ということで、どういう基準で評価をされているのかをちょっと教えていただきたいと思います。

○本坂新幹線元年戦略推進室長 新幹線元年戦略推進室でございます。

許可基準でございますが、基本的には出されたものについて、「くまモン」の例えば印象を害さないとか、そういう特別なもの以外は基本的には認めておるところでございます。ただし、食品等に關しましては、熊本県の食品を売り出す意味からも、基本的には熊本県で生産されたものについては県外で売っても構わないし、ただし県外で生産されたものについては、特殊なものを除き県内販売するものに認めるとか、そういうふうな形でやっておるところでございます。

○増永慎一郎委員 その場合に、実際に使われる絵柄、図柄とかを確認はされているんですか。

○本坂新幹線元年戦略推進室長 例えばございますが、その「くまモン」が熊本県のキャラクターでございますので、熊本県全体を売る、例えば熊本県の晩白柚を置くとか、そういうものにつきましてはオーケーしております。ただし、その商品が、「くまモン」のここに例えば商店の名前を書いてあるとか、そういうものにつきましては基本的には認めていない、あくまで熊本県の公的なキャラクターということを基本に選考しておるところでございます。

○増永慎一郎委員 ところが、この顔ですけど、これが大分崩れてきているような印象を受ける商品があります。実際、先々週になるんですけど、お客さんが来たので城彩苑の方に連れていったんですが、中にお土産物を売

っている「くまモン」のキャラクターが使われて、これが「くまモン」の顔をしていないようなものも、例えば目の玉の大きさが違ったりとか、体の大きさが全体的に違ったりとかしているような形がございますので、よければ顔の大きさとか、その辺も許可をされるときにはもうちょっときちんとチェックをされて、この図柄だったらオーケーということをしてもらわないと、せっかくつくったイメージがだんだんだんだん崩れていくんじゃないかなというふうなおそれがありますので、その辺について。

○本坂新幹線元年戦略推進室長 基本的に「くまモン」の絵でございます、今お手元にあるようなものにつきましては基本的には崩しはさせてはおりません。委員おっしゃったものは後でちょっと教えていただいて、そこはもう一度チェックしてみたいと思います。

ただ、「くまモン」をつくっていらっしゃる県内の業者さんで、例えばぬいぐるみとか、その辺をつくっていらっしゃる方は、なかなか似せようと思っても似せられない部分もスキル的にございます。ただ、県内の業者さんが、せっかくそれを売りたいというふうにおっしゃっているもんですから、そこはある程度県並びに物産振興の意味も含めて、100%いってないから許可しないなんてしますと、せっかくおつくりになったものも無駄になりますので、そこはできるだけ似せていただくという努力をしていただいて出しているところでございます。

ただし、この絵についてはかなりやっていますので、そこはまたきちっとやっていきたいというふうに考えております。

○小杉直委員 それなら私から2点、最初は55ページ。

これはちょっと提案的な質問になりますけれども、この55ページにも上の方には「被災

地に元気を届けるため」とか書いてあるな。それから坂本部長の説明要旨にも、「被災地に元気を送れるよう」にというふうなことをおっしゃいましたし、またこのパンフレットの「極城の祭典」にも、「がんばろう！日本」ということまで印刷してあります。

恐らく、東北震災のことを国難ととらえて、熊本県も我々議会も県民も一生懸命応援せんといかぬという気持ちのあらわれだろうと思いますが、ここに1、2、3といろいろな行事を書いてありますけれども、こういう中に熊本の焼酎、酒云々だけでなくて、被災地の酒とか焼酎も置くことはできないかと。

というのが、先週、岩手県の知事を2期か3期されたかな、元総務大臣の増田さんの話を聞きましたけれども、ともかく焼酎一本、酒一本でも東北3県の分を置いていただくということが、非常に元気につながって被災地応援のきずなにもなると。

そういう意味で、「人情に弱いくまです」とこの名刺に書いてあるけん、熊本は人情に弱いということにもなると思うのですが、そういうふうなことを、いろんなイベント等に被災地の品物を置いて、いろんな意味で応援と相乗効果とか、熊本県のイメージアップとか、そういうことはできないかなと提案的な質問です。

○本坂新幹線元年戦略推進室長 実は、1番の「サプライズナイト」、これにつきましては書いていますとおり、熊本酒造組合とそれから球磨焼酎酒造組合の御協力を得て、チャリティーで1,000円で試飲会という形でやらせていただきした。これをやるときに、実は2組合と御相談しまして、今委員のおっしゃった形で、東北の酒は置けないかという話を御相談したところでございます。そのときの両酒造組合さんの御意見が、実は東北の酒が売れ過ぎて、熊本県が2次被害に遭っているという話でございました。

私どもとしてもそれを考えてやろうと思ったんですが、逆に東北の酒がこっちで売れて、熊本県の県産酒が売れていないという現状があったということをお聞きしまして、それならばということで、では一応今回は県産酒だけでいこうということになった次第でございます。

ただ、今後とも当然東北の支援については考えなければいけませんし、きのうやりました「くまモン体操大集合」でも、飛行機からの空撮で、皆さんにハンカチを振っていただきまして、「がんばろう！日本」という形でやりましたので、その気持ちをずっと続けていきたいというふうに考えております。

○小杉直委員 わかりました。それは引き続き前向きにお願いします。

2点目、13ページ、航空路線の利用促進、国内線の振興について、これに関連してですが、小林局長、例のうつそうと茂った空港周辺の雑木林の整備については、その後どういうふうになっておりますか。

○小林企画振興部総括審議員 空港の北側県有地の件につきましては、これまでその有効活用でありますとか治安維持、これらの観点で数年来の課題でございました。これまで知事が日本一美しい空港、そしてその活性化策について積極的に取り組むという指摘がございまして、私どもに対してもいろいろと検討すべしという指示があつておるところでございます。

その中で、北側県有地のあり方についても現在検討しております。この北側県有地、あれだけの大きな森林でございますので、阿蘇くまもと空港らしい雰囲気づくり、そしてその森林を生かした、それを管理できるアイデアの一つとして、ホースセラピーもその一つの題材として検討しておるところでございます。可能な限りいろんなアイデアの中で最適

なものを選んで、早期に方向性を描き出していきたいと考えております。

○小杉直委員 小林局長が本省から戻ってくる、本県に勤めて本省に帰った、その本省に帰る前からの課題ですね。検討しておりますと言うが遅いな。

だから、予算が伴うこともあるし、いろんなホースセラピーについても関係者のいろんな都合もあるでしょうが、ときどきは懸案事項として考えとったならば説明をしていただきたいということと、もう少しあなたなりのスピーディー性をひとつ発揮していただきたいというふうに要望しておきます。以上。

○西聖一委員 私も2点お願ひします。

1つは、36ページですけど、JR豊肥線を活用した空港ライナーの運行で、これは前々から問題になっていますけども、新たに取り組むということでこれはこれでいいんですが、聞いたところによりますと、今空港内に空港と大津間の無料タクシーがあるとお聞きしたんですが、それは情報は入っていますか。

○中川交通政策長 現在、空港ライナーは、地元のタクシー事業者と連携しまして今回無料実験で走っていただいておりますが、それ以外で無料で走っているタクシーの件は承知しておりません。

○西聖一委員 では、ライナーなんか、バスでなくてタクシーにもさせているんですか。

○中川交通政策長 タクシー事業者がジャンボタクシーを活用して、それと小型タクシーもあわせて、今回の実験はライナー運行いたしております。

○西聖一委員 ちょうどタクシーの運転手さ

んから聞いて、おとといの話だったもんだから承知しとらぬだったですけれど、その乗り入れのタクシーを、まず大津管内のタクシーに限定しとるというのが1点で、その他のタクシーの運転手さんは非常に困っていると。

もう一つは、大津駅までは何か2,000円ぐらい無料になるらしいんですが、決して大津駅でおりるわけではなくて、それから菊池に行くとか、あそこにはソニーの会社とかありますから、そういう会社に行くときには、あと2,000プラス1,000円ぐらいでどこでも行ける、阿蘇にも行ける、そういう利用をする人がおるらしいです。そういうのはおかしいんじゃないかなと思いますね。

○中川交通政策長 1点目の、タクシー事業者の選定の件につきましては、私ども今回の実験に当たりましては、タクシー業界、県のタクシー協会、それから県のバス業界も含めてその傘下の会員様すべてに、今回の実験に当たって参加をしますかと投げかけをいたしております。その結果、提案があった事業者の中でコンペを開催しまして、一番フットワークよく動いてくれそうな地元のタクシー3社の共同事業体ということに選定した経緯がございます。それが1点目でございます。

2点目につきましては、私どもの空港ライナー今走っておりますのは、空港と大津駅の2点間の往復ですので、委員がおっしゃられたような形態はできないようになっています。

以上でございます。

○西聖一委員 できないかどうかはもう一回確認していただくのと、協力してくれる会社はありがたいけど、あそこは個人タクシーも乗り入れしているから、それを排除するような動きは、県として私はおかしいんじゃないかなと。全部、チケットかなんかで利用した人は県に申請すれば還付できるような制度に

しておかないと……。

それと、タクシーができればバスの方は全く利用者は出ないと思うんです。その整合性をとってください。それは後からいいです。

あと一点ですけど、別添資料の8ページなんですけど……

○松田三郎委員長 資料何番のですか。

○西聖一委員 別添資料①です。市電サイドリザベーション化で軌道の緑化なんですが、これを見るとわかるように、駅前は非常に寂しいといわれつつも、この緑化についてはすごく熊本らしい取り組みだと私は思っておるんですが、先日の新聞だったと思うけど、熊本市の方の事業仕分けで、この緑化はむだだという話も出ているらしいんです。たしか事業主体は熊本市の交通局でしょうけども、県の方としてはやるべきだと私は思うんですが、県としての関係はどのようになっていますか。

○内田都市計画課長 私の方から。

軌道緑化はあくまでも熊本市の判断でやつておられるということでございますので、県の立場としては、ぜひ進めていただきたいという働きかけをしていくことではないかというふうに思っています。

○西聖一委員 それだとお願いしかないんですけども、せっかく取り組んできた結果ですから、やっぱり市ができなければ県でも助成するぐらいの姿勢を持ってやらないと、駅前の景観は何か寂しいものになりますか。

○松田三郎委員長 答弁はいいですか。

○西聖一委員 もしあるならですね。

○内田都市計画課長 県がということではありますけど、熊本市が運営している熊本市電の事業でございますので、財政的な支援とかいう意味で言われたかと思いますけど、なかなか難しい問題じゃないかと思っておりますが、何らかの形で支援していくということは必要ではないかというふうに思っています。

○西聖一委員 よろしくお願ひいたします。

○岩中伸司委員 説明をいただきました。非常に新幹線効果が出ているということが、資料でたくさん出されています。この資料の中にも、これは別添資料の②の1ページで先ほど言われておりましたように、関西から熊本まではかなり新幹線効果が出ているというふうなことで、10万3,000人増加しているという御報告ですけれども、ふえた分というのはもちろんJRの統計資料かなんかに基づいた乗降客の数だろうと思いますけれども、このふえた中身については何か分析をされていましたか。空港は若干減っていますけども、新幹線の利用者がふえた……

○松田三郎委員長 ふえた何ですか、理由ですか、原因、内訳とかで……。

○岩中伸司委員 ふえた原因というか、それはどういうふうに分析されていますか。

○中川交通政策課長 交通政策課でございます。

私どもとしましては、時間をかけまして、特に関西地方を中心に熊本の認知度を高める取り組みをした、その結果こちらに足を運んでくれる目的ができたということで、多くの方が新幹線を利用していただいた、そういうふうに見ております。

○岩中伸司委員 そうすると、ほとんど多く

の人は観光が中心と理解していいですか。

○中川交通政策課長 手元に詳細な数字はございませんが、観光はもちろんふえていると聞いております。ただ一方、ビジネスもかなりふえてきてているというふうに聞いています。申しわけございません、数字で明確に何人何人というのは、ただいま手元に数字はございません。

○岩中伸司委員 ビジネスの分は飛行機からの移動だろうと思います。ビジネスで改めて、新幹線ができたので乗ってみようかということで仕事をつくる会社はないと思いますので、形式はちょっと違うのかなというふうな感じでいます。

こういう形で新幹線効果が出ているというふうな数字の報告はございました。これに関連して、交通政策についてもうちょっと観光面で、今中身でいけば私は観光がふえているのかなと思ったんですが、先ほど観光の調査をされていますけれども、これは個人の移動と理解をしますけれども、もう一つ旅行会社、この辺の関係の新幹線利用というのはどれぐらい伸びているのかなというふうなこと。

○宮尾観光課長 観光課でございます。

個人ではない旅行会社の調査ということをございますけれども、JR西日本の個人型旅行商品によりますと、22年度末で200%、23年開業した後は500%という伸びがございます。データがございます。したがいまして、確実に関西以西からの新幹線を使った観光客、お客様方は手ごたえを感じているところでございます。

○岩中伸司委員 そうすれば、観光の面では非常に効果が予想以上に上がっているという言い方をしていいぐらいの数字の報告だと思

いますけれども、ただこの特別委員会は、高速交通及び新幹線活用対策特別委員会という特別委員会ですので、私が一番問題にしている在来線なんかは、これは在来線でこちら辺は全く……。

ちょっと関連しますけれども、上熊本駅のことが結節点のことでどこですか、40ページですか、これで公共交通に関する会議を開催する等々と書かれていますけれども、私は、上熊本駅は、新幹線開業前は特急列車がかなりの本数とまっていた駅じゃないかなというふうに認識をしているんですけども、新幹線でかなりそういう意味では上熊本利用のお客が減ったのではないかという心配もしていますけれども、その辺の動向は把握されていますか。

○中川交通政策課長 今までの上熊本駅につきましては、まだ新幹線開業前後の数字は申しわけございませんが手元にはございません。委員おっしゃられましたように、特急がなくなっているのは確かでございますので、その分の影響はあるかもしれません。今後また調査したいと思います。

○早田順一委員 イベント関係ですね。この「極城の祭典」をあけていただくと、会場が二の丸広場と竹の丸広場とございますけども、その中に、真ん中の下ぐらいに城彩苑がございます。先ほどちょっと城彩苑の話が出ましたけれども、私がここに行ったのが数ヵ月前だったから、今はどうなっているかわかりませんけども、あそこに観光案内がございます。あそこにパネルが張られたんですけども、あのパネルを見たら、熊本県全体が載っているのかなと思ったんです、天草とか阿蘇とか。そうしたら、きれいに合併する植木までが載っておったんですけど、それ以外は全然載っていないわけです。

だから、こういった例ええば宮崎とか鹿児島

県と合同でされる観光とか、この熊本城近辺でされる観光、恐らくイベントが多くなってくると思うんですけども、その辺の熊本市に對して、ぜひ言っていただきたいと思います。

○宮尾観光課長 熊本市の観光案内所は、城彩苑、熊本駅等にはございますけれども、基本的には県内の主な観光地のパンフレット等は置いていただくようにお願いをしておりまして、スペースの問題はもちろんあるんですけども、基本的にそういう御協力をいただいております。引き続きまして、今の委員の御指摘につきましては熊本市にもお願いいたしまして、やっぱりおっしゃるように県全体の観光案内という部分が、特に阿蘇ですか天草ですかという部分が大事ですので、引き続きお願いしてまいります。

○早田順一委員 確かに、パンフレットはありました。ただ、政令市を目指す熊本市が、やはり熊本県に対して気配りといいますか、九州全体を見てそういうことをしていただかないとい、小さいことではありますけども、その辺で熊本市としての対応はどうなのかなという思いをしたもんですから。

それともう1点。別紙①の7ページに、西口の写真が載っておりますけども、こないだ熊本駅に行って新幹線を見たんですが、ここには「マイカー等との乗り換えの利便性を向上しました」と書いてあります。確かに整備をされて向上したと思っておりますけども、一般車両の方のマナーが悪いのかどうかちょっとあれですけど、そこに車をとめて送り迎えなのか、きっぷを買われたのかわかりません。ちょうどそのときに、大型の観光バスが立ち往生をされていたんです。だから、せっかく利用される方がふえている中で、そういったふうな対策をしっかりとっていただきたいと思いますけどいかがですか。

○内田都市計画課長 委員御指摘のような状況がございますならば、熊本市に対しましてそういったことがないよう申し入れをしてまいりたいと思います。

○早田順一委員 よろしくお願ひします。

○村上寅美委員 ちょっと関連でよかですか。

新幹線の西口、これは熊本市の区画整理と聞いておるけど、あの区画整理地区内に幼稚園・保育園があつたり、クリニックがあつたり、個人住宅があつたり、不動産会社があつたりしてばらばらでしょう。あれは区画整理の制度ではあると思うけど、何でああいう形になったんですか。市の指定地区だからこれはと思うけど、あれは見苦しい。

○松田三郎委員長 だれが答弁しますか。

○内田都市計画課長 駅西の土地区画整理事業につきましては、今委員御指摘のとおり、熊本市が実施している土地区画整理事業でございます。区画整理の必要といたしまして、今まで空地を持っておった方が、原則もとの土地に帰るということで、現在土地を持っていらっしゃる方が一部換地で土地を減歩いたしますけども、私有地の場合はもとの地権者がそのまま帰っていらっしゃるという状況でございます。

○村上寅美委員 ここは県議会だけん、やかましゅうも言われぬけれども、見苦しか。みんなそう言われる。おれはJRに個人的に抗議した。そうするとJRも腹かいとる、こんなことは日本にはありませんて、JRがそがん言うたとだけん。そらどうもならぬたい、県ではね。

○内田都市計画課長 県の方ではちょっと。

○村上寅美委員 みんな行ってみりやわかつたい。だから、さつきみたいな大型とか、そういう問題も出てくったい、広く公共用地を取れぬもんだけんね。

はい、よか、答えは要らぬ。

○高木健次委員 先ほどの早田委員の質問に関連するんですけども、先ほどの課長から言われた新幹線の開業効果、大変数字的にわかっているけれども、私はまだ半信半疑ですよ。非常に危惧というか心配する面もあるわけです。半年ぐらいで誘客数がふえたとか、乗客数がふえたとかは、これはまだ今の段階では何とも言えない。

やっぱり言わされたとおり、一過性のものじゃなくして、継続していく何というか施策をとっていかないと、非常に大きな問題が出てくるかなという面で、58ページから県のいろいろな取り組みがたくさん列挙されておりますけれども、先ほど「極城の祭典」、このリーフレットもありますけども、10月8日から3日間お城を核としたこの祭典。

こういうイベントがいっぱい出てくる割には、熊本城付近の駐車場の不足が指摘されていますね。これは合同庁舎のB棟が完成して移るわけですから、あと何年ですか、これが撤去されてあそこに駐車場をつくる。それまで6年か7年ぐらいかかると思うんですけども、これはやっぱり主体は熊本市でしょうけれども、熊本県として、熊本市と協議しての取り組みというのは非常に大きなものとなると思うんです。

熊本駅もそうですけれども、新幹線が開業するのにまだ駅舎もできていない、在来線の交番もできていない、それもあと7年かかる、こういう何というか、後手後手の取り組みが熊本県では目立つんじやないかなと思うんです。

ですから、この駐車場の整備、城彩苑を含めた庁舎跡地の駐車場、それから駐車場がもしうけたとしても、二の丸公園とか上に上がるときにかなり急斜面がありますね。ですから、今いろいろなところで話を聞くと、屋外のエスカレーター等をつくらないと、幾ら駐車場ができてもあそこに上がるのにものすごく何といいますか、観光客が来られても非常に不評が出るんじゃないかなという指摘もあるわけです。

だから、その辺含めて、来られた方から不評、批判が出ないようなおもてなしといいますか、環境整備というのは非常にこれから急がれるんじゃないかなと思うんですけれども、その辺については何か取り組みというのか、熊本市含めて協議を推進されているという何かシステム、そういうものがあるんですか。

○松田三郎委員長 これはどこになりますか。

○佐藤地域振興課長 地域振興課でございます。

合同庁舎の件に関して地域振興課で担当しておりますので、それを私の方でわかる範囲でお答えしたいと思いますが、合同庁舎の移転、B棟完成するのが今のところ国の説明では26年の10月というふうに聞いております。したがいまして、現合同庁舎のあるあの地域一帯が更地になっていくのは、26年10月以降であろうというふうに思っております。

現段階で解体等につきましては、具体的にはまだ決まっていないというのが国の予定といいますか、そういう日程になっておりまして、今後熊本市と国の方で協議をしていくんだろうと思っております。

ただ、合同庁舎を駅前に移転、県・市一体となって頑張っていきましたけど、これは駅前の賑わいを創出するということのほかに、

熊本城を活用していくんだということもあっておるわけでございますので、今委員御指摘のような駐車場として有効活用する、こういったことは当然やつていくべきだと思っておりますので、我々も市と一緒にになって、國の方には働きかけをしていきたいというふうに思っております。

○高木健次委員 それからもう一つですが、今まで半年、開業効果でいろいろ熊本にお客さんが来られた、観光で来られる方、ビジネスで来られる方、来て、今からの熊本県というのを売り出していくためには、やっぱりリピーターがなくてはこの客数というのはふえないわけです。その面で、熊本に来られた方が県あたりに対する県の評価とか、そういう何といいますか、こういうところがよかつた、悪かったとか、苦情受付窓口みたいなものを開設かなんかしているんですか。それはない——どこか担当のところもない。

○松田三郎委員長 わかる範囲内で結構です。所管でなかつたら。

○宮尾観光課長 観光課でございます。

特に、そのための窓口というのを設けているわけではございませんけれども、随時例えば熊本駅が使いにくかったとか、あるいはそういう城彩苑等の苦情も含めて私どもなり、観光連盟の方に御意見いただくことはございます。そういうものは一つ一つ、もちろんすぐに解決できる問題とできない問題とあるんですけども、一つ一つ丁寧に対応させていただき思っております。

○高木健次委員 そういう面も含めてしっかりとやっていかないと、これから先、リピーターというのでまた来られるという人がなかなかふえてこないんじゃないかなということですから、ぜひその辺はしっかりと今後検討して

ください。

○高野洋介委員 関連です。例えばそういう苦情とか、そういうのはこないだのアンケートをとられたときに、「どちらに行かれましたか」と、それに対して「どうでしたか」というアンケート項目も入れた方が私はいいと思うんです。ああいうふうに答えてくれる人というのはまじめに考えてくれている人ですから、そういうところに糸口が見えてくると思うんです。

例えば、私がよく聞くのが、阿蘇に行った、土・日阿蘇に行ったけど、57号線が混み過ぎておもしろくなくなつたという話も聞きます。こういうのを含めて、今度は土木部と連携して、例えば観光地が多いからもう少し道を広げようとか、そういうところも出てこないと、それはそれ、これはこれでしていくというのもずっとそういうふうに感じておりますので、そこら辺は県全体として考えていかないと前に進まないと思うんですけども、そこら辺は、アンケート調査のやり方というのをどういうふうに考えますか。

○宮尾観光課長 観光課でございます。

先ほど御説明いたしましたアンケートは、新幹線の開業効果という点で絞って短期間でやったもんですから、「どうでしたか」という感想まではお聞きしていないんですけども、民間等の旅行会社とか、あるいは「じやらんネット」等が、いわゆる満足度的なものというのもいろんなデータとしてございます。

また、私どもも含めまして、私どもも当然、先ほどリピーターが大切だという高木委員からのお話もありましたけども、まさにおっしゃるとおりだと思っております。その辺は大事にしていきたいと思っておりますので、その辺はどういうアンケートにするか、あるいはいつするかというのもございます

が、十分考えながら進めたいと思っております。ありがとうございます。

○堤泰弘委員 私はいつも小林局長にお尋ねがまた同じことで申しわけありません。

本資料の34ページですね、空港ライナー、運行時間最速12分、これは大津と熊本と思います。それから熊本駅から最速42分。当初、新幹線の開業以前、かなり以前から30分以内を目標に議論があった記憶があります。この12分というのは非常に大きいと思います。それで、これを短縮することは空港ライナーでは難しいと思います。最初の計画のように、大津駅から熊本空港までやっぱり線路を敷かぬと12分の短縮というのは難しいと思うんです。

それから、やはり相手がおりますから、福岡側も福岡空港を利用してもらうために手立てをするかもしれないですね。そうしますと、なかなか現況では厳しいと思いますので、そこをひとつ考えていただきたいと思います。

それから、これは34ページではありませんけども、34ページも含むというふうに思います、新幹線の効果というのが、数字の上ではかなり出てきております。それで、私は阿蘇におりますし豊肥線が走っております。いろいろ大津から先の電化のこととか要望しても、なかなかJRが聞いてくれません。しかし、この新幹線効果というのでJRがかなり利益を上げるとと思うんです。お金をもうけとると思います。今度はJRが我々に還元をしてもらわにやいかぬ。

この豊肥線も含めてその一部、大津から空港までの建設費が最初の試算では250億ぐらいだらうと、実際はわかりません。それに対して、これだけJRのお客がふえておれば、250億ぐらいは全部出せとは私は言わぬですけども、考慮の範疇に入るんではないかと思います。

それからもう一つ。JRが新幹線で利益を上げて、熊本県も出した分の配当はいただいておられると思いますけれども、しかし熊本県の職員さんが通勤で30分ぐらいで行きますから、1人JRに常駐をする。心臓部にですよ、JRの一番大事なところに金出しておるわけですから常駐をして、やはりもう少し熊本に目を向けさせぬと、JRが熊本に対する今までの——おれんじ鉄道も一緒ですよ、岩中委員がいつもおっしゃいますけども、もう少し利益還元をせにやいかぬと思います。

大津からの線路敷設の件と、それから県の一番元気のよか職員さんをJRに常駐させるという件をお願いしたいと思います。答えは難しいと思いますけど、どうぞ。

○小林企画振興部総括審議員 2点目は、人事施策も絡む話でございますのでちょっとお答えしにくいんですが、まず1点目の、豊肥線の空港への直接の乗り入れという件につきましては、過去の検討で一たん検討凍結ということにさせていただきました。その後、2日前大津駅の南口ができまして、空港ライナーをもって無料運行というのは開始されまして、関係者の意見を聞きましても相当利便性が高まると。まずは、大津駅を基点とした空港アクセスを確立して、人の流れをつくっていくということが先決だと思っております。

この豊肥線を活用した空港アクセスについては、例えば阿蘇方面、そして豊後竹田でありますとか、鹿児島本線沿線もターゲットとし得る交通手段であるというふうに実感しておりますので、まずは個々についての人の流れをつくって、需要ができるて、さらに将来の話として鉄道の検討というものがまたあり得るかもしれないというふうに認識しております。

空港ライナーについては以上でございます。

次のJRへの職員の常駐につきましては、こちらに総務部もおりませんのでちょっとお答えはしにくいですが、よろしゅうございますか。

○堤泰弘委員 必ず聞いてもらえばいい。

それともういっちょです、JRが新幹線でもうけて、その金で大津から先を電化してくれと、これは答えは出とるはずです。

○小林企画振興部総括審議員 豊肥線の輸送能力のアップについては、私どもも関心を持っております。現在、肥後大津まで電化が行われておりますが、この能力をさらに先の電化も含めた利便性の向上につきましては、今後ともJRとは意見交換をしっかりとしていきたいと思っております。

○松田三郎委員長 質疑は以上で……

○山本秀久委員 今までずっと各委員の方々がいろいろな問題を提起されておりましたけども、その中で一つ私が感じたことは、新幹線の効果というものの陰に、さっきだれかも言ったですけれど、在来線の問題があるのにすべて忘れられている点が多いんです。

それで、在来線の沿線にある町村というのは、この効果のために地域の観光の前途に対しても、協力的にやっている。今ずっと聞いているけど、皆さん方、大変縦横に動いてくれていることはわかるけれど、在来線に付随した町村が、大変な観光の問題に対して真剣に取り組んでいることを忘れてはいないかという面があるわけだ。

余りにも新幹線の方ばかりに顔がむいて、そして一つこれを聞くけど、この名刺はどういうところでつくるの。これは県でつくったの。

○坂本くまもとブランド推進室長 これは委

託事業でつくっておりまして、県の方でつくつて、委託事業者からアイデアが出てまいりましたので、それを両方で検討して……

○山本秀久委員 こんなむだなやり方ってあるかい。「くまモン」というのはもうわかっているだろう。だったら、各地域の観光のあれを、阿蘇なら阿蘇、天草なら天草、いろいろ載せて名刺を何百枚も配るんだったら、この裏にこういう絵なんか入れる必要なんてないんだ。ここに「くまモン」と書いてあって、マークが入っていればそれでいいんじゃないかな。こういう利用価値というものを考えて名刺つくったら……。こういうむだな話つてあるもんか、おれから見ると。そう考えたね。

○坂本くまもとブランド推進室長 山本委員のおっしゃることはよく理解できますが、まず「くまモン」に関心を持ってもらって、それから熊本に関心を持ってもらうという形で……

○山本秀久委員 「くまモン」というのは、テレビやいろんなところで出ているじゃないか。名刺というのは各地で渡すんだろう。だったら、その地域の観光の名刺を載せたらどうかということを言っているんだ。効果が出てくるんだ。各地域の問題というのは、ただパンフレットに載ったりなんかしているだけであって、こういうようなものを手渡しするんだったら、天草はこういうのがあるな、阿蘇はこういうのがあるなとわかるんだろうが。そこを言っているんだから聞けよ。それから発言せい。

○坂本くまもとブランド推進室長 委員のおっしゃることは十分わかりますので、そこを踏まえてまた検討させていただきますが、私どもの趣旨だけについて御説明させていただ

きますと、先ほど御説明させていただきましたように、まず「くまモン」を知っていただいて、「くまモン」に関心を持っていただいて、熊本へという形で展開をしてまいりたいということでやっております。

○山本秀久委員 よくわかった。それはわかっているし、「くまモン」というのはあんたたちは今までどれだけ発言しておるか、効果が出てますと。効果が出てるんだったら、それだけ効果が出たんだったらそれを利用したらどうかということをおれが言っているんだ。中で、そこで何でとまっているんだ、そこから先に進めということを言っていることなんだ。違うか。言っている意味がわからなければだめだよ。

○村上寅美委員 関連で。これはわかるわけだ。君が言うのも、「くまモン」のPRですよということを君が強調しようと思う。それはそれで目的の一つだけど、今山本委員が言われているのは、「くまモン」のPRの中に県下の観光地とか、市町村とか、そういうような相乗効果を出すべきじゃないかと。――会長そうでしょう。

○山本秀久委員 そうたい。

○村上寅美委員 そういう質問だから、そういう意味とわかつただろう。

○山本秀久委員 そこを言っているんだ。おれんじ鉄道なんかの在来線というのは、新幹線を加えて、乗りかえの時間帯がばらばらなんだから、その地域に行きたくても行けないんだ。2泊、3日泊まる人たちのそういう田舎の業界に目を向けておるんだ。そういうのに君たちの目は向いていないんだもん。だからそれを向けると言っているんだ。意味がわかつておればいいよ。

○松田三郎委員長 内容はわかりますね。

○氷室雄一郎委員 観光課長もおられますし、推進室の室長がおられますので、課長のところでなかなか言いにくいので、私の方からお願いをしておきます。

企画振興部長、また財政課の方にお願いなんです。くまもとブランド推進課、観光課、大変な御努力をいただいて、こういう資料もつくっていただきましたけども、鹿児島の場合ちょっとこの前質問でお話ししましたが、シンクタンクに委託をして、毎月きちっとしたデータが出るような制度があるわけですね。

だから、情報戦でございますので、所によりますと、鹿児島は年間240万ぐらいで、毎月いろんなデータがちゃんと出てくるような仕組みになっています。熊本もあるんじやないかと思うんですけども、実は少ない人間で頑張っておられますので、そういうデータ収集ぐらいは何とか考えていただいて、それから情報も要るようになってまいりますので、そのデータを毎月利用してさまざまな施策の展開ができるように、大切な面を踏まえまして、ぜひ目を通してくださいたいということを要望しておきます。

○松田三郎委員長 一般質問でも氷室委員が質問なさったところでございますので、要望としていただきます。

次に、議題(2)の閉会中の継続審査についてお諮りいたします。

本委員会に付託の調査事件につきましては、審査未了のため、次期定例会まで本委員会を存続して審査する旨、議長に申し出ることとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○松田三郎委員長 異議なしと認めます。それでは、そのようにいたします。

その他として何かございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○松田三郎委員長 ないようでございます。

以上をもちまして……

○鎌田聰委員 济みません、1点。

これはどこになりますか、東口の駅前利活用関係ですけども、以前は、整備に入る前は田崎市場の関係者の皆さんですかね、日曜の朝市ということで駅前でずっとやられていたそうですけども、今は少し二本木の方に入つて「パチンコダイナム」、あの辺で朝やられているそうなんです。駅の整備が一たん終わりましたので、駅前でやりたいということを言われているんですけどもそれはできないということで、これはどこが、JRが言っているのかよくわかりませんけど、もともと、そのように駅前の活性化がなんかもやられていたので、駅前に戻していくだくようにそれはできないのかなと思いますがどうですか。

○上野鉄道高架推進室長 駅前で朝市をされていたのは存じております。それで、今回暫定広場ということでスペースが狭いものですから、近くの空き地があるところに今移動していただいているということでございますので、また今後完成形の駅前広場への整備に向けてもございますので、朝市の方とはその辺のお話をさせていただきたいと思います。

○松田三郎委員長 よろしいですか。

○鎌田聰委員 完成形となりますとかなりまた年数が経過をいたしますので、日曜の朝、余りいろいろなものに障害のない時間帯でやられていて、地域の人たち含めてやってきて非常に喜ばれていると思いますので、少しその辺は柔軟に対応していただいて、それが駅前の活性化につながるような取り組みをやっていただきたいと思います。そういう方向

で動いていただきますようにお願いしておきます。

○松田三郎委員長 ほかにないようでござりますので、本日の委員会はこれで閉会いたします。

午前11時55分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定により
ここに署名する
高速交通及び新幹線活用対策特別委員会
委員長